

発寒清掃工場更新事業に係る 環境影響評価準備書の概要

令和8年（2026年） 9月18日（金）

札幌市 環境局 環境事業部 施設管理課

本日の説明内容

1. 事業計画の概要
2. 方法書手続きに係る報告事項
3. 環境影響評価の結果
4. 今後のスケジュール

1. 事業計画の概要

事業概要

① 効率的な収集・安定的な焼却体制の確保

現在の3 清掃工場体制を維持

② 施設老朽化への対応

老朽化が進む発寒清掃工場更新が急務

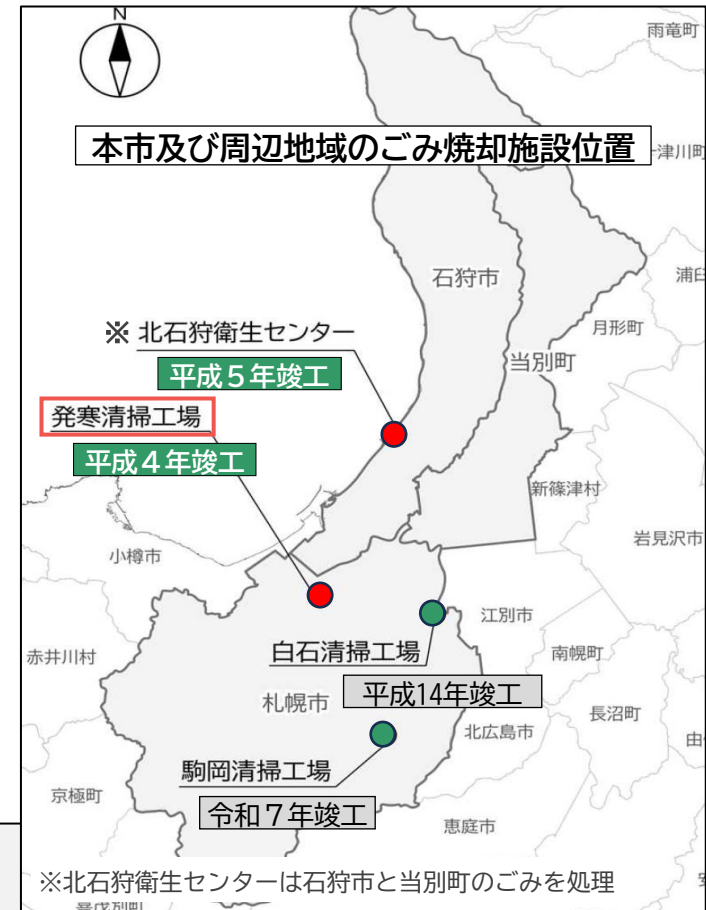
発寒清掃工場の建替えが必要

※北石狩衛生センター(石狩市、当別町)の可燃ごみを受入れする計画

事業の名称：発寒清掃工場更新事業

事業の種類：札幌市環境影響評価条例第2条第2項第6号
「その他一般廃棄物処理施設の新設」の第一種事業

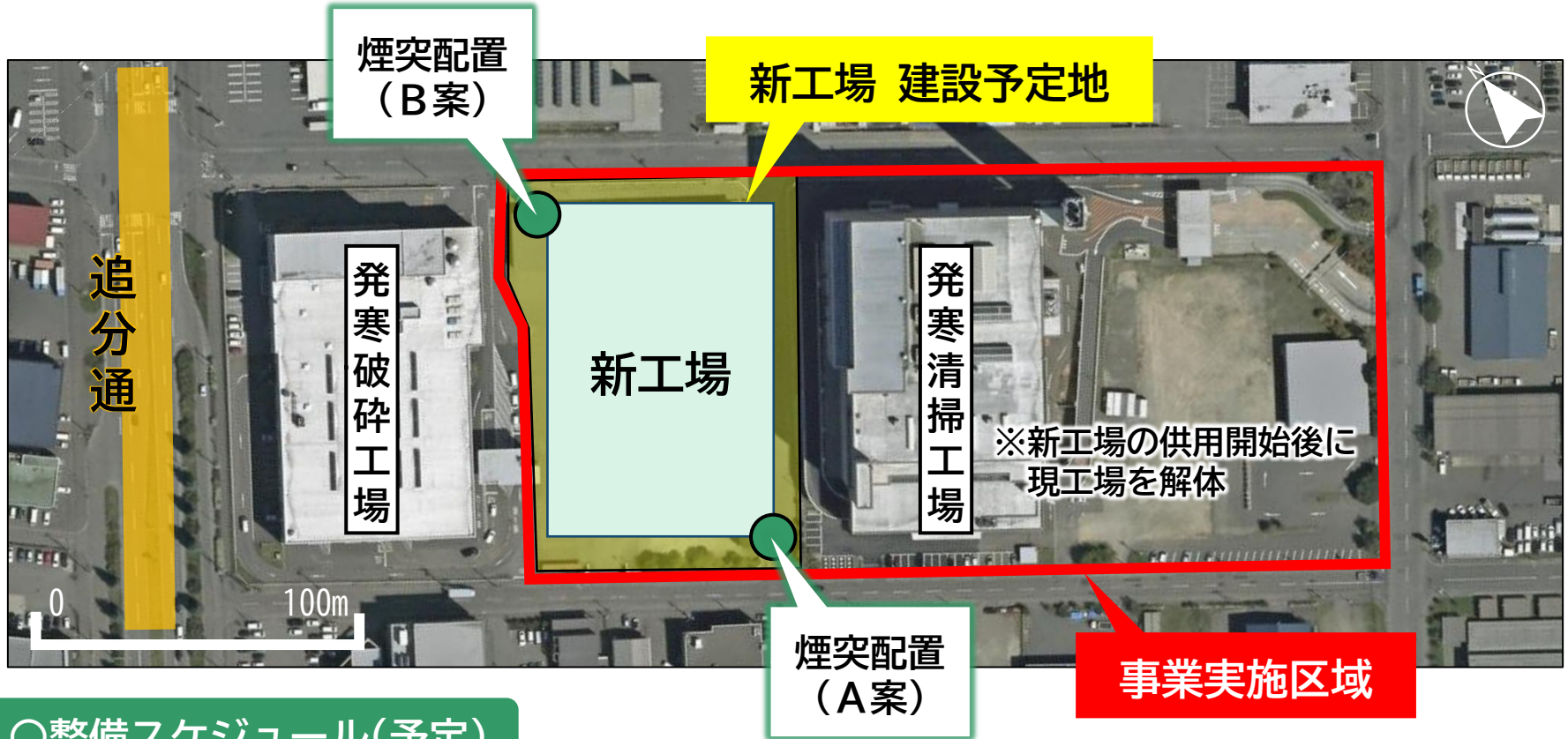
施設の規模：640 t / 日



発寒清掃工場の位置



事業実施区域



○整備スケジュール(予定)

令和9年度
(2027年度)
事業者選定



令和10年度
(2028年度)
建設工事開始



令和16年度
(2034年度)
新工場稼働開始
現工場解体開始



令和21年度
(2039年度)
現工場解体完了

新工場と現工場の比較

項 目	(新)発寒清掃工場	(現)発寒清掃工場
処理能力	640t/日	600t/日
稼働時間	24時間連続	同 左
処理方式	ストーカ式	同 左
炉数	2 炉	同 左
煙突高さ	地上100m	同 左
排水方式	下水道接続	同 左
供用開始年	2034(R16)年予定	1992(H4)年

(現)発寒清掃工場
600t/日
北石狩衛生センター (石狩市、当別町)
180t/日

集約化

(新)発寒清掃工場 処理能力
640t/日
(札幌市分 570t/日 石狩市・当別町分 70t/日)

新工場供用後は、石狩市・当別町の可燃ごみを受け入れる計画

2. 方法書手続きに係る報告事項

環境影響評価項目の選定結果

環境要素の区分 環境要因の区分		工事中			供用後					
		建設機械の稼働	工事車両の運行	切土工／施設設置	新工場の存在	新工場の稼働			ごみ搬入車両の運行	廃棄物の発生
						排出ガス	排水	機械等稼働		
大気質	硫黄酸化物					○				
	窒素酸化物	●	●			○			○	
	浮遊粒子状物質	●	●			○			○	
	粉じん等	○	○							
	有害物質					○				
騒音	騒音	○	○					○	○	
振動	振動	○	○					○	○	
低周波音	低周波音							○		

○：環境要素として選定する項目 ●：市長意見に基づき追加した項目

環境要素の区分 環境要因の区分		工事中			供用後					
		建設機械の稼働	工事車両の運行	切土工／施設設置	新工場の存在	新工場の稼働			ごみ搬入車両の運行	廃棄物の発生
						排出ガス	排水	機械等稼働		
悪臭	悪臭				○	○				
日照障害	日照障害				○					
電波障害	電波障害				○					
景観	主要な眺望点及び 景観資源並びに 主要な眺望景観				○					
人と自然との 触れ合いの 活動の場	主要な人と自然との 触れ合いの活動の場				○					
廃棄物等	廃棄物及び副産物			○						○
温室効果ガス	二酸化炭素					○				

○：環境要素として選定する項目

方法書についての意見と見解

札幌市環境影響評価条例 第11条 の規定による意見 (住民等意見)

縦覧期間	令和6年（2024年）8月7日～9月5日
説明会	令和6年（2024年）9月4日 参加人数：5名 質疑内容：アセスメント関連 7件 事業計画関連 1件
意見募集期間	令和6年（2024年）8月7日～9月19日 意見書の数：1件

条例第11条の規定による意見と事業者の見解

住民意見	事業者の見解
方法書では大気質の調査地点を卓越風（北西～南東）方向に設定しているが、煙突・建物風下に生じるダウンウォッシュ等の多様な気象条件も考慮し、事業地近傍の医療・文教施設等の保全対象地点を大気質の調査・予測地点に加えてほしい。	配慮書段階での煙突排ガスの予測結果（煙突排ガスは北西～南東方向に拡散）に基づき調査地点を選定した。 意見を参考に、調査地点の追加を検討する。 <u>煙突排ガスに係る調査・予測地点</u> 方法書：5地点 ↓ 準備書：7地点 ＋ 新川サイロ公園 新発寒小学校 を追加 【準備書：6-21°-ジ、7-1-1-63°-ジ】

条例第14条の規定による意見と事業者の見解（1/2）

分類	市長意見	事業者の見解
複数案の絞り込みについて	周辺には環境保全の配慮が必要な施設等が存在する。工場の稼働による環境影響を回避・低減できるように、煙突の高さや配置等を十分考慮して適切に絞りこむこと。	煙突高さ・配置は周辺施設や住居に配慮して計画する。 施設配置の複数案は、準備書段階で絞り込みの検討を行う。 A案・B案の施設配置で環境影響を予測
温室効果ガスについて	導入する設備・施設等の省エネルギー化等を推進し、供用後も温室効果ガスの排出量削減に努めること。	新工場では高効率なエネルギー回収設備の導入のほか、建築設備の省エネ化を検討し、温室効果ガスの排出量削減を図る。 新工場の省エネ化を考慮した温室効果ガス排出量を予測 【準備書：7-3-2-12～13A°-ジ】

条例第14条の規定による意見と事業者の見解（2/2）

分類	市長意見	事業者の見解
大気質・騒音・振動について	石狩市及び当別町からのごみ搬入車両の走行ルートを選択し、受入地域の広域化による増加分を含めた搬入車両全体の大気質・騒音・振動に係る環境影響について、調査・予測及び評価を十分に行うこと。	札幌市分に加え、石狩市及び当別町を含めたごみ搬入車両のルートの決定にあたっては、環境への影響を考慮したうえで、適切なルート選定を行う。 走行ルートは、主要な幹線道路（下手稲通・追分通）を想定。 走行ルートを全台が走行する条件で安全側の予測を実施。 【準備書：7-1-1-130～131A°-ジ】

方法書から準備書の再検討事項

騒音/振動の評価指標（建設機械の稼働）

※赤字：変更内容

方法書内容	準備書内容	理由
■事業実施区域敷地境界 特定建設作業に伴う規制基準	■事業実施区域敷地境界 指標① 特定建設作業に伴う規制基準 指標② 現況から著しい変化を生じさせない	現況の騒音が既に規制基準値を超過する地点に対して、本事業の環境影響を評価する指標として設定
■周辺の保全対象施設 現況から著しい変化を生じさせない	■周辺の保全対象施設 指標① 騒音の環境基準（幹線交通）または振動の感覚閾値 指標② 現況から著しい変化を生じさせない	生活環境の保全の観点から、本事業の環境影響と基準値等との整合性を確認するために設定

騒音/振動の評価指標（施設の稼働）

※赤字：変更内容

方法書内容	準備書内容	理由
■事業実施区域敷地境界 特定工場等に係る 規制基準(第2種区域)	■事業実施区域敷地境界 指標① 特定工場等に係る規制 基準(第2種区域) 指標② 現況から著しい変化を 生じさせない	・ 現況の騒音が既に規制基準値を超過 する地点に対して、本事業の環境影響 を評価する指標として設定
■周辺の保全対象施設 騒音の環境基準 (一般地域のB類型)	■周辺の保全対象施設 指標① 騒音の環境基準(幹線交 通) 指標② 現況から著しい変化を 生じさせない	・ 現況の騒音が既に規制基準値を超過 する地点に対して、本事業の環境影響 を評価する指標として設定 ・ 予測地点で適用される騒音の環境基 準に変更

騒音/振動の評価指標（工事車両の運行/ごみ搬入車両の運行）

方法書内容	準備書内容	理由
騒音の環境基準(道路に 面する地域のB及びC類 型)または振動の要請限 度(第1種区域)	指標① 騒音の環境基準(幹線交 通)または振動の要請限度(第1 種区域) 指標② 現況から著しい変化を生 じさせない	・ 現況の騒音が既に規制基準値を超過 する地点に対して、本事業の環境影響 を評価する指標として設定 ・ 予測地点で適用される騒音の環境基 準に変更

3. 環境影響評価の結果

本事業の工程

○事業フロー：新工場建設から現工場解体まで一連の事業

新工場建設中



新工場完成＝供用時



本事業の工程

○事業フロー：新工場建設から現工場解体まで一連の事業

新工場建設中



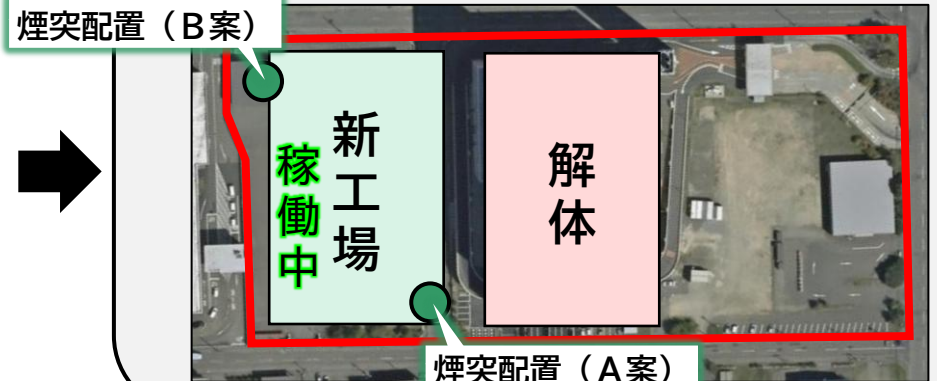
新工場完成＝供用時



現工場解体中



現工場解体完了＝完成時

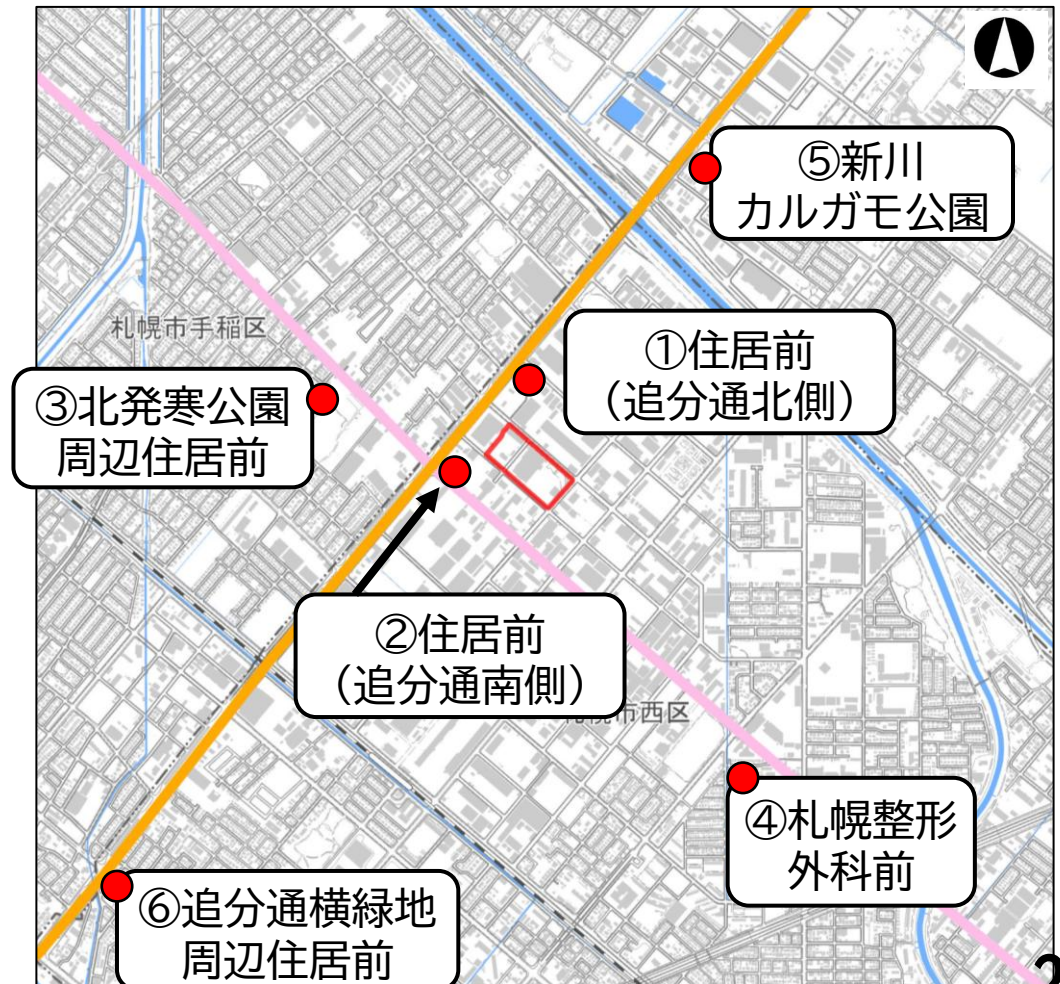
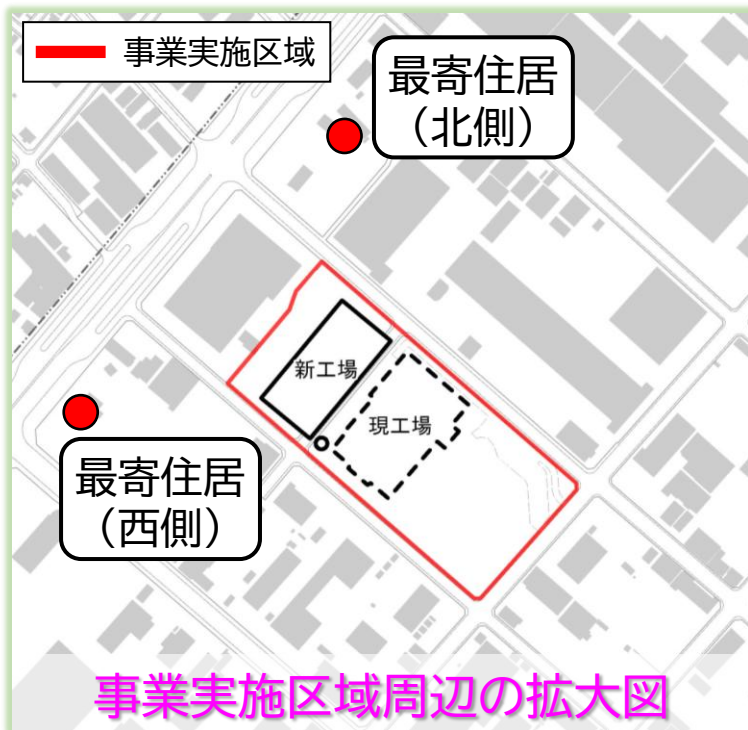


主要な予測地点

工事車両・ごみ収集車の主な走行ルート

下手稲通

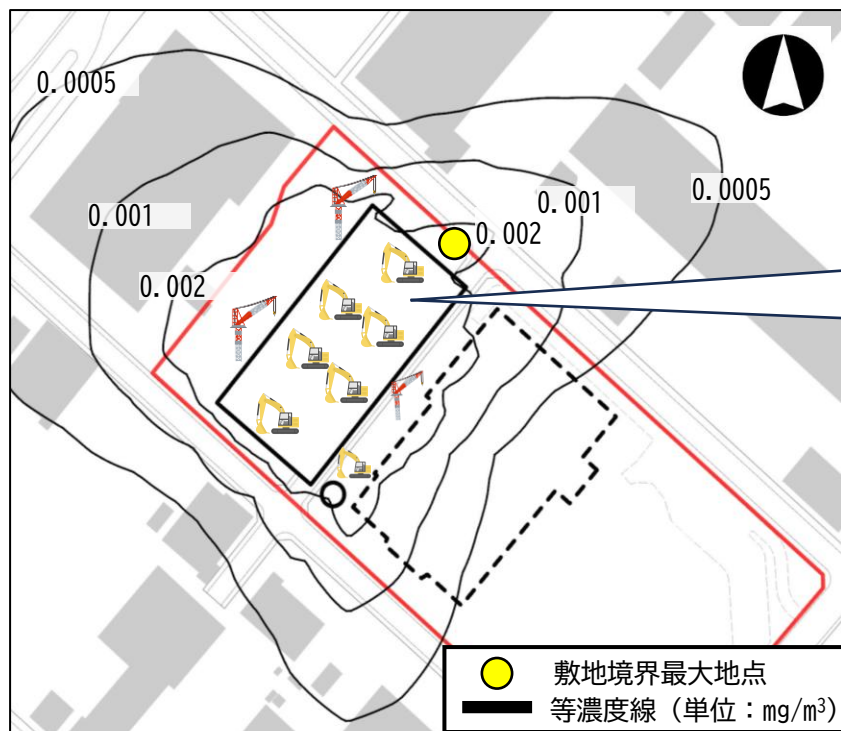
追分通



大気質 1. 建設機械の稼働

■二酸化窒素・浮遊粒子状物質

予測地点	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	予測結果	評価指標	判定	予測結果	評価指標	判定
敷地境界最大地点	0.06	0.06以下	○	0.04	0.10以下	○



【想定した建設機械の種類】

- ・バックホウ 7台
- ・クローラクレーン 1台
- ・クライミングクレーン 1台
- ・ラフタークレーン 1台

寄与濃度コンター図（浮遊粒子状物質の例）

大気質 1. 建設機械の稼働

■粉じん (t/km²/月)

予測地点	予測結果		評価指標	判定
敷地境界 最大地点	春季	11.6	10以下	×
	夏季	8.3		○
	秋季	12.2		×

“無対策時”
の予測結果

環境保全措置

- ・ 表土乾燥時の湿潤化
- ・ 車両入退出時のタイヤ洗浄

評価指標以下に低減されると予測

土砂掘削範囲

工事車両走行

粉じん発生源の位置図

大 気 質

2. 工事車両の運行 / 4. ごみ搬入車両の運行

予測地点	二酸化窒素 (ppm)			浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		
	予測 結果	評価 指標	判定	予測 結果	評価 指標	判定
①住居前（追分通北側）	0.023	0.06 以下	○	0.033	0.10 以下	○
②住居前（追分通南側）	0.023		○	0.033		○
③北発寒公園周辺住居前	0.023		○	0.033		○
④札幌整形外科前	0.024		○	0.035		○
⑤新川カルガモ公園	0.024		○	0.029		○
⑥追分通横緑地周辺住居	0.023		○	0.029		○

大気質

3. 新工場の稼働①

■長期濃度（年平均値）（最大着地濃度地点）

項目	予測結果	評価指標	判定
二酸化硫黄 (ppm)	0.002	0.04以下	○
二酸化窒素 (ppm)	0.036	0.06以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.027	0.10以下	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0119	0.6以下	○
水銀 (μgHg/m ³)	0.0023	0.04以下	○

最大着地濃度地点は、
煙突の西側 約800mに出現



大気質

3. 新工場の稼働②

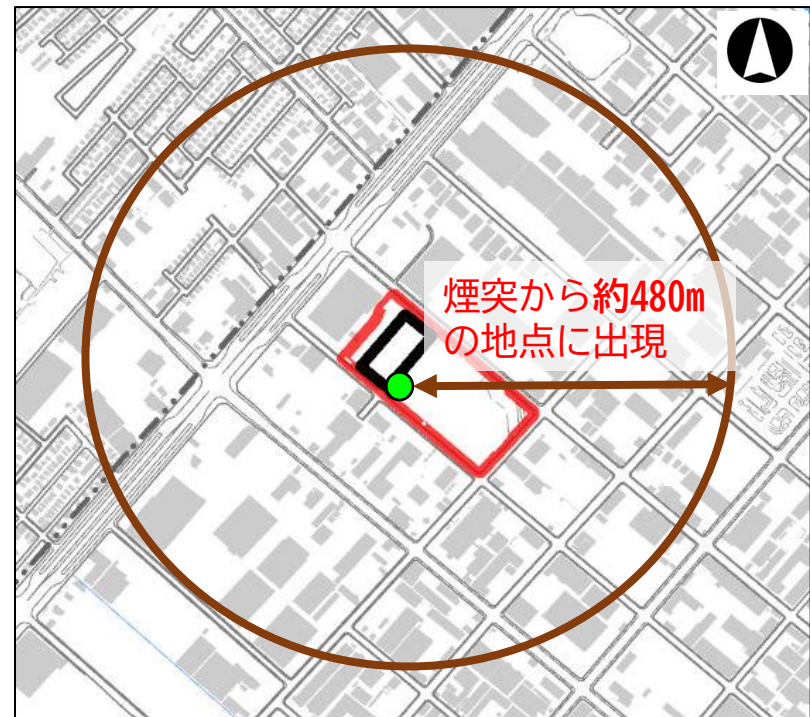
■短期濃度（1時間値）

想定した
気象条件

①大気安定度不安定時、②逆転層発生時、③逆転層崩壊時、
④ダウンウォッシュ時、⑤ダウンドラフト時

逆転層崩壊時の予測結果

項目	予測結果	評価指標	判定
二酸化硫黄 (ppm)	0.0558	0.1以下	○
二酸化窒素 (ppm)	0.0898	0.1以下	○
浮遊粒子状物 (mg/m ³)	0.0584	0.20以下	○
塩化水素 (ppm)	0.0181	0.02以下	○

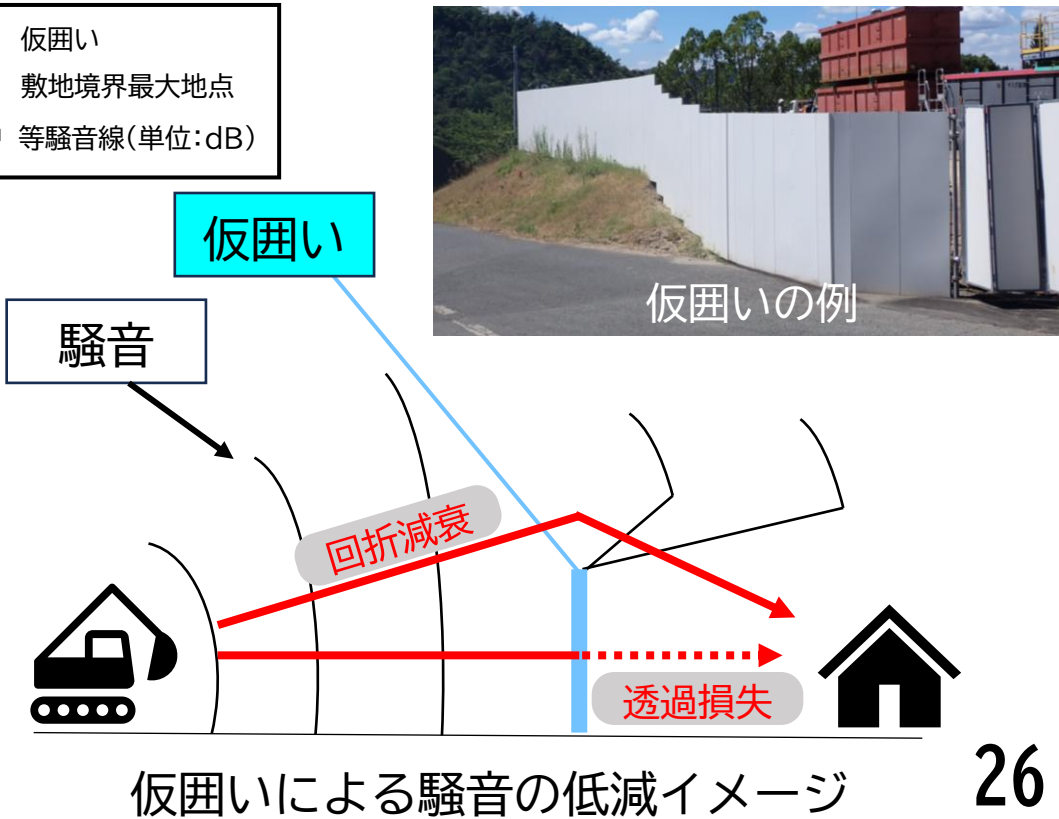
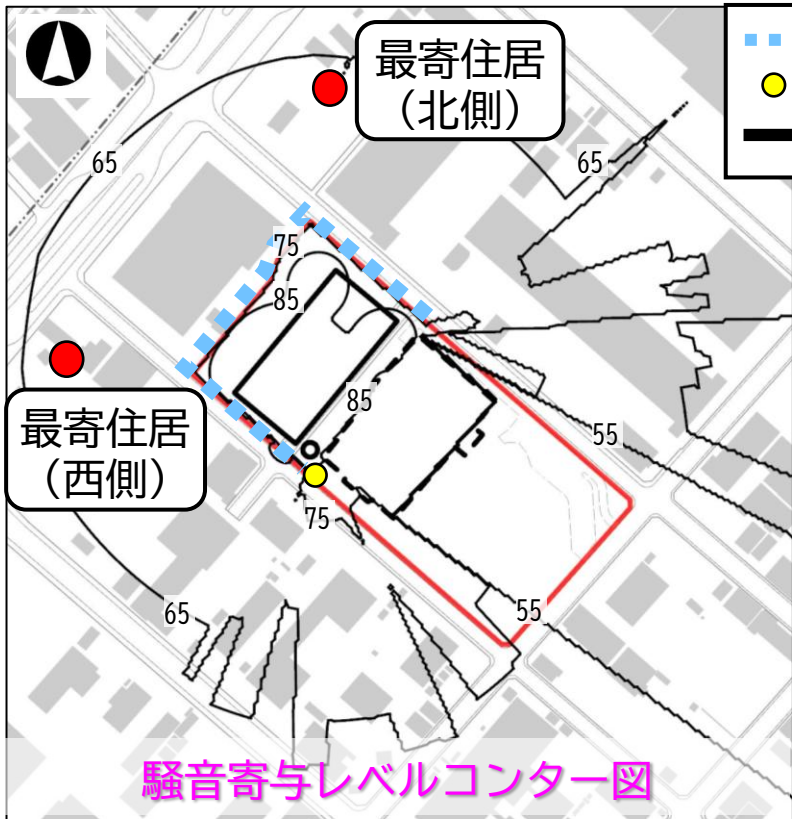


最大着地濃度出現地点
(逆転層崩壊時)

騒音・振動

1. 建設機械の稼働

予測地点	騒音レベル (dB)		振動レベル (dB)		判定
	予測結果	評価指標	予測結果	評価指標	
敷地境界最大地点	82	85以下	71	75以下	○
最寄住居 (北側)	67	70以下	51	55以下	○
最寄住居 (西側)	64		50		○



騒音・振動 2. 工事車両の運行 / 4. ごみ搬入車両の運行

予測地点	騒音レベル (dB)						振動レベル (dB)		
	予測結果	評価指標①	判定①	現況からの増加量	評価指標②	判定②	予測結果	評価指標	判定
①住居前 (追分通北側)	65	70 以下	○		現況を著しく変化させない		51	65 以下	○
②住居前 (追分通南側)	63		○				46		○
③北発寒公園 周辺住居前	68		○				44		○
④札幌整形外科前	71		×	増加なし		○	48		○
⑤新川カルガモ公園	63		○				51		○
⑥追分通横緑地周辺住居	65		○				46		○

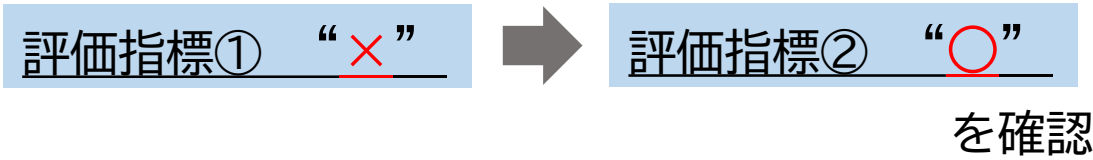
評価指標① “×” ➡ 評価指標② “○” を確認

騒音・振動

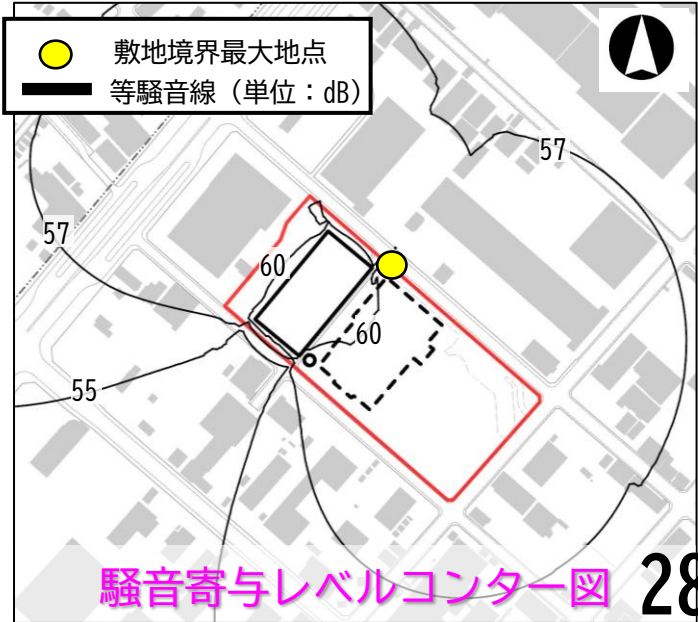
3. 新工場の稼働①

■敷地境界最大地点の予測結果

予測地点	時間区分	騒音レベル (dB)					
		予測結果	評価指標①	判定①	現況からの増加量	評価指標②	判定②
敷地境界最大地点	朝	71	45以下	×	増加なし	現況を著しく変化させない	○
	昼間	72	55以下	×	増加なし		○
	夕	70	45以下	×	+1		○
	夜間	70	40以下	×	+1		○



予測地点	時間区分	振動レベル (dB)		判定
		予測結果	評価指標	
敷地境界最大地点	昼間	58	60以下	○
	夜間	50	55以下	○



騒音・振動 3. 新工場の稼働②

■周辺の保全対象施設の予測結果

予測地点	時間区分	騒音レベル (dB)					
		予測結果	評価指標①	判定①	現況からの増加量	評価指標②	判定②
最寄住居 (北側)	昼間	66	70以下	○	+1	現況を著しく変化させない	
	夜間	67	65以下	×			○
最寄住居 (西側)	昼間	61	70以下	○			
	夜間	59	65以下	○			

予測地点	時間区分	振動レベル (dB)		判定
		予測結果	評価指標	
最寄住居 (北側)	昼間	48	55以下	○
	夜間	40	55以下	○
最寄住居 (西側)	昼間	46	55以下	○
	夜間	38	55以下	○

評価指標① “×”



評価指標② “○”

を確認

低周波音

1. 新工場の稼働

■ G特性音圧レベル (L_{Geq})

単位：dB

予測地点	調査結果 (現工場)	予測結果 (新工場)	評価指標	判定
敷地境界 4地点	73～78	67～75	92以下	○
最寄住居(北側)	77	69		○
最寄住居(西側)	72	69		○

■ 1/3オクターブバンド音圧レベル

	参照値を超過した 周波数レンジ	参照値超過時の 音圧レベル (dB)
調査結果 (現工場)	1 8 25 31.5 40 80(Hz) 31.5～80Hzで超過	58～70
予測結果 (新工場)	1 8 25 31.5 40 80(Hz) 40～80Hzで超過	50～59

- ・ 現工場稼働中に苦情の発生なし
- ・ 現工場と比較して低周波音の発生状況は改善

➡ **影響は軽微と評価**
しかし、

不確実性があるため
事後調査 で確認

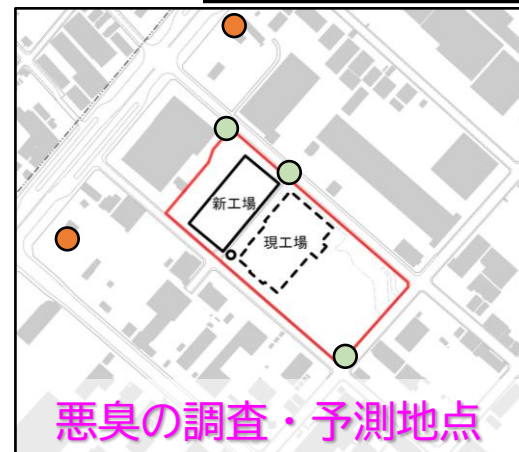
悪臭

1. 新工場の存在 / 2. 新工場の稼働

■工場から漏洩する悪臭

予測地点	臭気指数			判定
	調査結果 (現工場)	予測結果 (新工場)	評価 指標	
敷地境界 3地点	10未満	10未満	10未満	○
最寄住居 2地点	10未満	10未満		○

- 調査地点（敷地境界）
- 調査地点（最寄住居）



現工場において
悪臭漏洩なし

新工場も同様の悪臭対策を徹底
悪臭漏洩は発生しない と予測

<現工場の対策事例>

- ・脱臭設備の設置
- ・エアカーテンの設置
- ・自動開閉式扉の設置

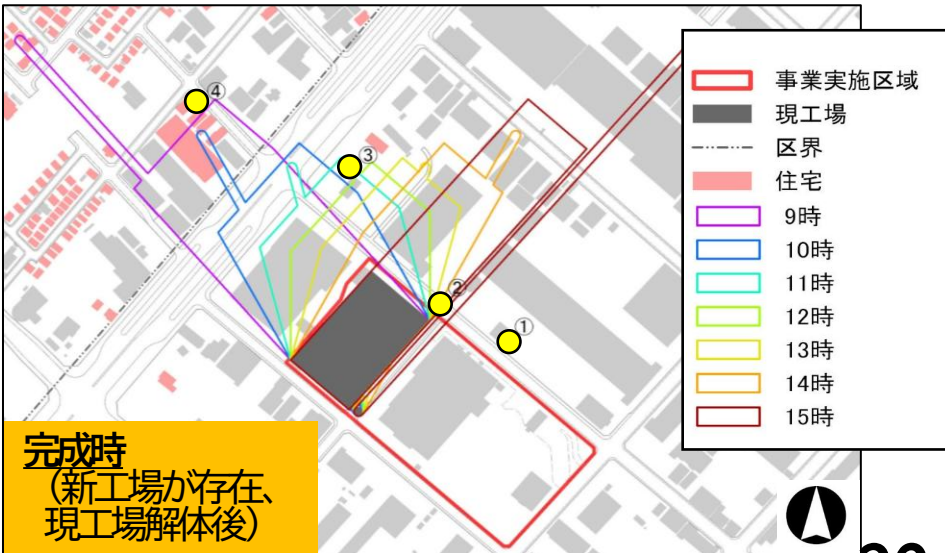
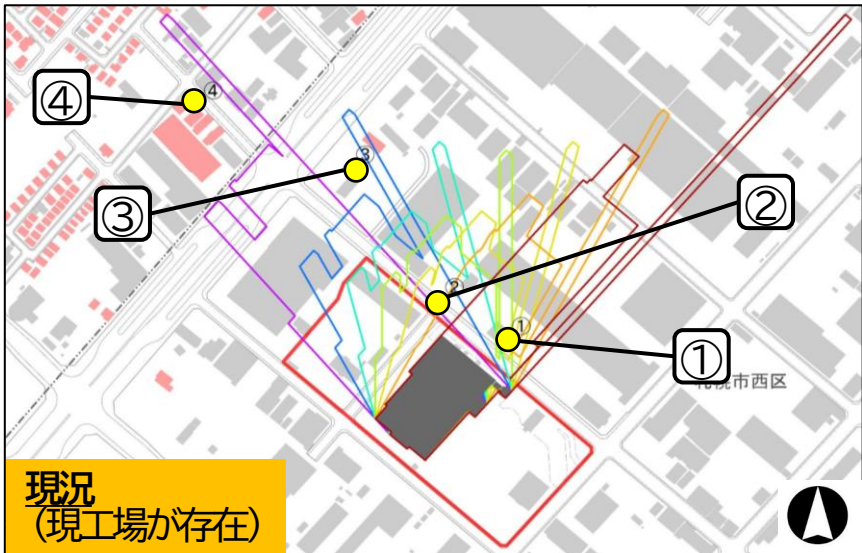
■新工場の稼働（排ガス）による影響

予測地点	臭気指数	評価指標	判定
最大着地濃度地点	10未満 (0.08~1.35)	10以下	○

日照障害

1. 新工場の存在

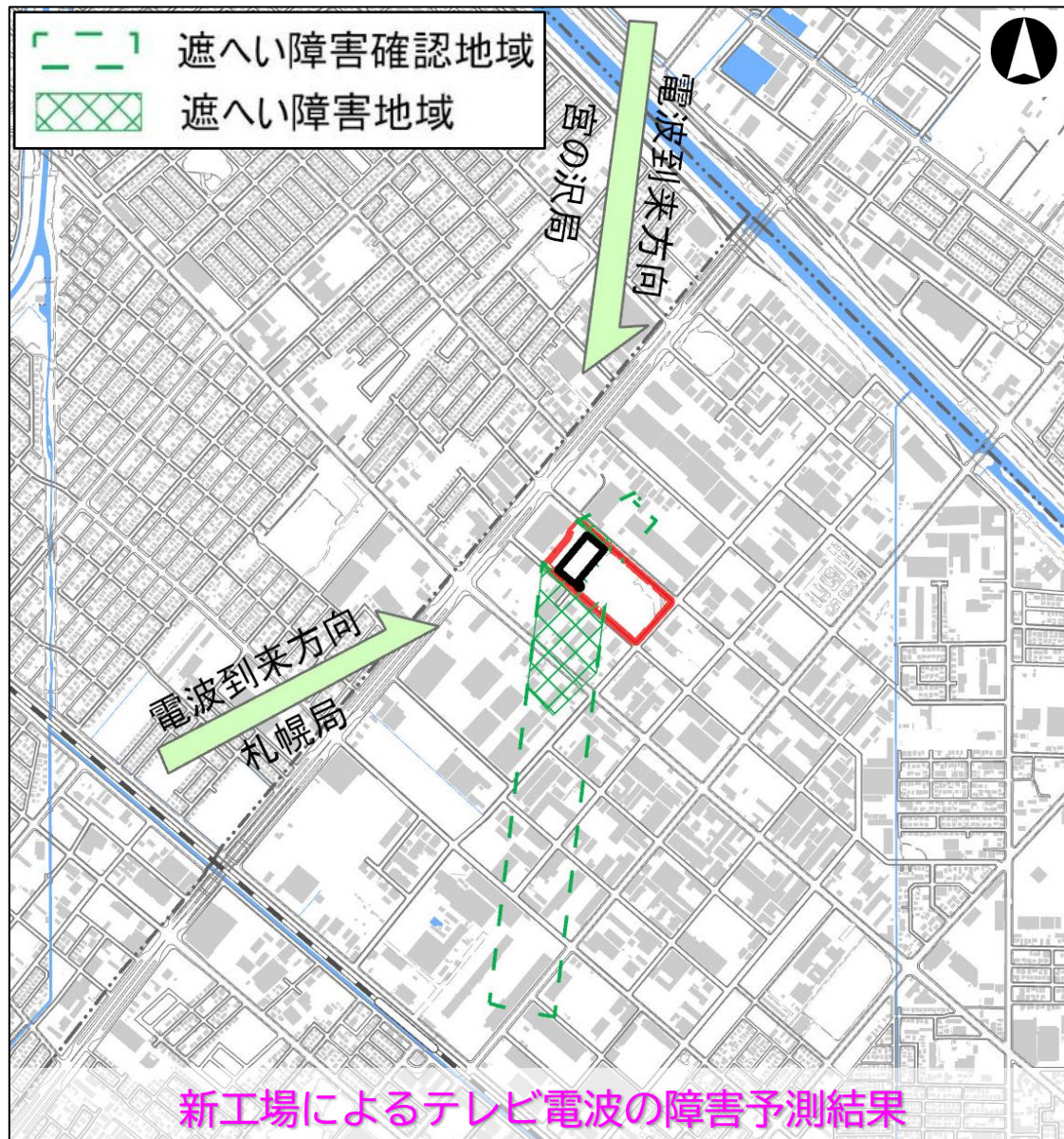
予測地点	日影の発生時間（冬至日）		評価指標	判定
	予測結果			
	現況(現工場)	完成時(新工場)		
①近隣事業所付近（北東）	3.0時間	0時間	4時間以下	○
②近接事業所付近（北）	4.5時間	1.0時間		○
③最寄住居付近（北）	0.2時間	0.6時間	2.5時間以下	○
④近接アパート（北西）	0時間	0時間		○



時刻別の日影の発生状況（冬至日：地上1.5m高さ）

電波障害

1. 新工場の存在



新工場の南側に、
宮の沢局電波の遮へい障害が
発生する可能性がある予測

障害が生じた場合、

アンテナ調整により、
札幌局の電波受信で解消可能

景観・人と自然との触れ合い活動の場

景 観

煙突の位置が **視界右方向** に移動する程度で、眺望に **大きな変化なし**

新工場では景観に配慮したデザインや色調を選定する計画



(例) 発寒いこい公園からの眺望の変化

人と自然との触れ合い活動の場

- ・ 周辺の人触れ場における景観の変化は小さい
- ・ 景色を目的とした利用者への影響は少ない



**本事業の影響は
ほとんどない**

廃棄物

1. 工事の実施 / 2. 供用後の廃棄物の発生

■工事の実施に伴う廃棄物

- ・建設副産物の92%を再利用し、残りは適切に処分可能であると予測
- ・建設発生土は、全量を場内で再利用する計画

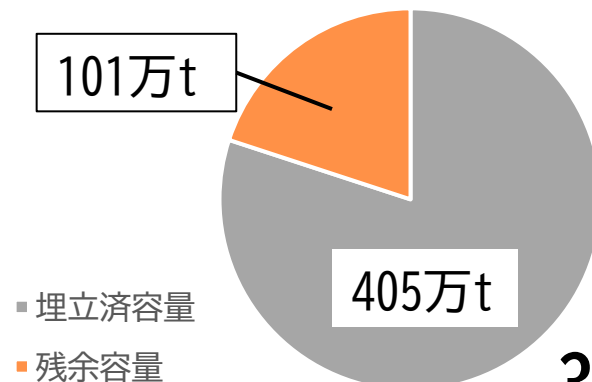
項目	発生量			再利用率	再利用量	処分量
	撤去 構造物	伐採 樹木	新工場 建築			
建設副産物	46,815 t			92 %	43,263 t	3,552 t
建設発生土	22,890 m ³			100 %	22,890 m ³	0 m ³

■新工場の存在・稼働に伴う廃棄物

- ・新工場では焼却量の増加に伴って焼却残さも増加
- ・現工場と同様に埋立処理場で全量を適切に処分可能

項目	現工場 (R6年度)	新工場 (R16年度)
焼却量	133,386 t/年	150,800 t/年
焼却残さ	15,401 t/年	17,412 t/年

※山口処理場の埋立容量内訳
(2026年3月)



温室効果ガス等

1. 新工場の稼働

新工場における温室効果ガス排出量は、現工場と比較して **約35%が減少**

予測時期	物質	排出量	地球 温暖化 計数	温室効果ガス量 (t-CO ₂ /年)	
				物質別	合計
現 況 (R6年度)	二酸化炭素 (t-CO ₂ /年)	92,908.16	1	92,908.16	94,451.62
	メタン (t-CH ₄ /年)	0.42	28	11.76	
	一酸化二窒素 (t-N ₂ O/年)	5.78	265	1,531.70	
供用時 (R16年度)	二酸化炭素 (t-CO ₂ /年)	60,674.06	1	60,674.06	62,209.85
	メタン (t-CH ₄ /年)	0.43	28	12.04	
	一酸化二窒素 (t-N ₂ O/年)	5.75	265	1,523.75	
現況から供用時の増減 (R6合計－R16合計)					-32,241.77

環境影響評価のまとめ（工事中）

区分	予測項目	判定		予測結果の概要
		A 案	B 案	
大気質	二酸化窒素、 浮遊粒子状物質	○	○	評価指標を満足
	粉じん	△	○	環境保全措置によって、発生量は 評価指標以下に低減できると評価
騒音	騒音レベル	○	○	評価指標を満足 仮囲いによる騒音対策で低減
振動	振動レベル	○	○	評価指標を満足
廃棄物等	建設副産物	○		適切にリサイクル・処分が可能

煙突配置（B 案）



煙突配置（A 案）

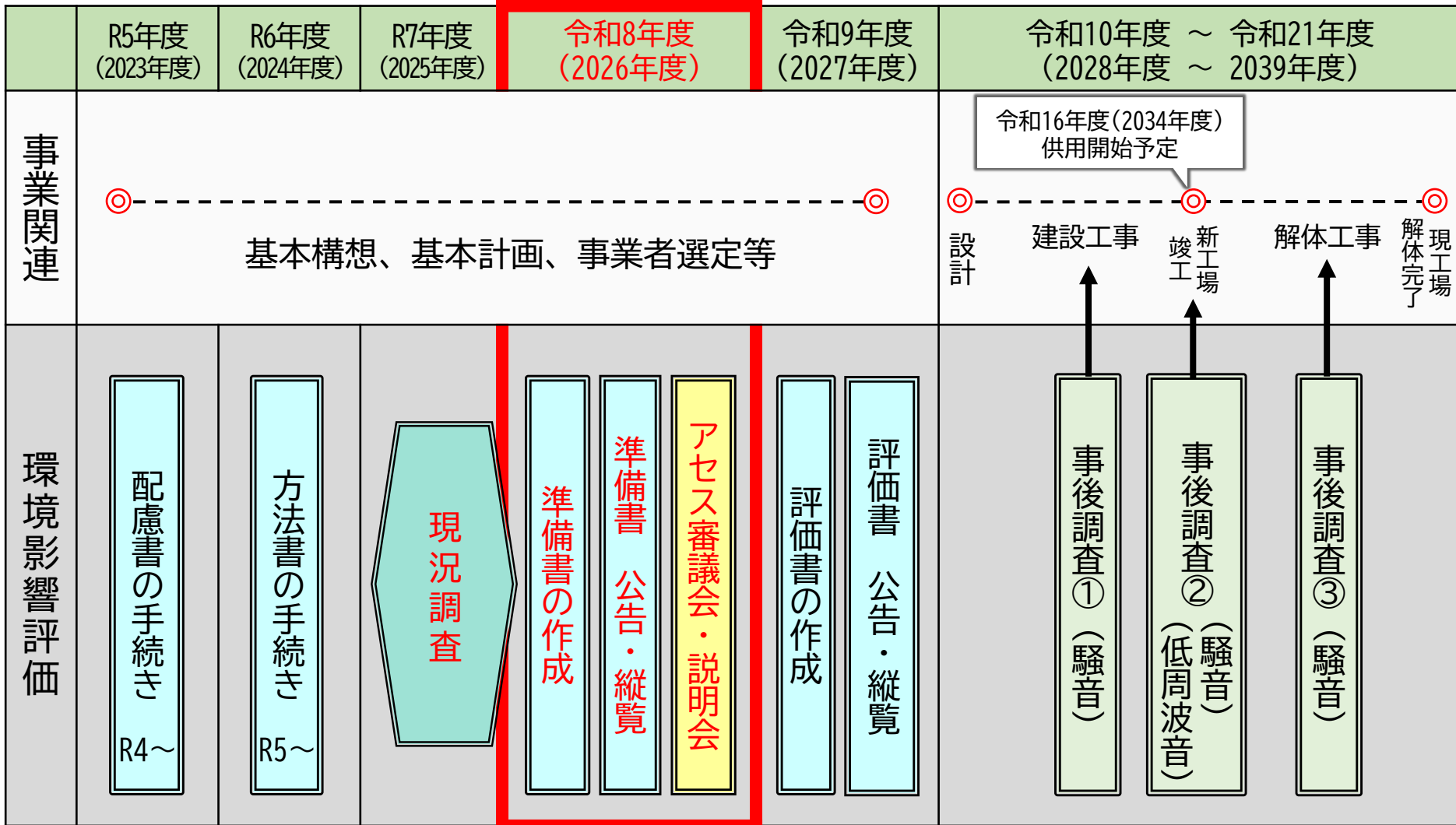
環境影響評価のまとめ（供用後）

区分	予測項目	判定		予測結果の概要
		A案	B案	
大気質	大気汚染物質	○	○	評価指標を満足
騒音	騒音レベル	○	○	評価指標を満足
振動	振動レベル	○	○	評価指標を満足
低周波音	G特性音圧レベル	○	○	評価指標を満足
	1/3オクターブバンド	△	△	一部で参照値を超過するが、 現況より改善し、影響は軽微
悪臭	臭気指数	○	○	評価指標を満足
日照障害	日影の発生状況	○	○	評価指標を満足
電波障害	電波の障害状況	○	○	札幌局のテレビ電波で解消可能
景観	眺望の変化	○	○	現況から変化しない
廃棄物等	焼却残さ	○		適切に処分が可能
温室効果ガス	温室効果ガス量	○		現工場よりも減少

A案・B案どちらの配置案も、ほとんどの項目が評価指標を満足する

4. 今後のスケジュール

今後のスケジュール



準備書の手続きスケジュール

公告日	令和8年（2026年）9月1日（火）
縦覧期間	令和8年（2026年）9月1日（火）～ 9月30日（水）
縦覧場所等	・ 札幌市役所本庁舎、環境プラザ、西区役所、手稲区役所、札幌市ホームページ ※環境プラザのみ、土・日・祝日の縦覧可能。
準備書説明会	・ 開催日時：令和8年（2026年）9月16日（水） 18時30分～19時30分 ・ 場所：発寒清掃工場内 会議室
意見書提出	提出先：札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課 提出方法：郵送、FAX、Eメール、直接持参のいずれか 提出期限：令和8年（2026年）10月14日（水）必着

準備書説明会の開催報告

■開催日

令和8年（2026年）9月16日（水）

■参加人数

1名

■質疑・意見等

アセスメント関連 なし

事業計画関連 5件



質問内容	回答内容
新工場の耐用年数はどの位を想定しているか。	30年以上を想定している。
旧西清掃事務所と発寒清掃工場の間にある市道は新工場の建設予定地に組み込むのか。	令和10年3月頃に市道の一部を廃止して、新工場の建設予定地として整備します。